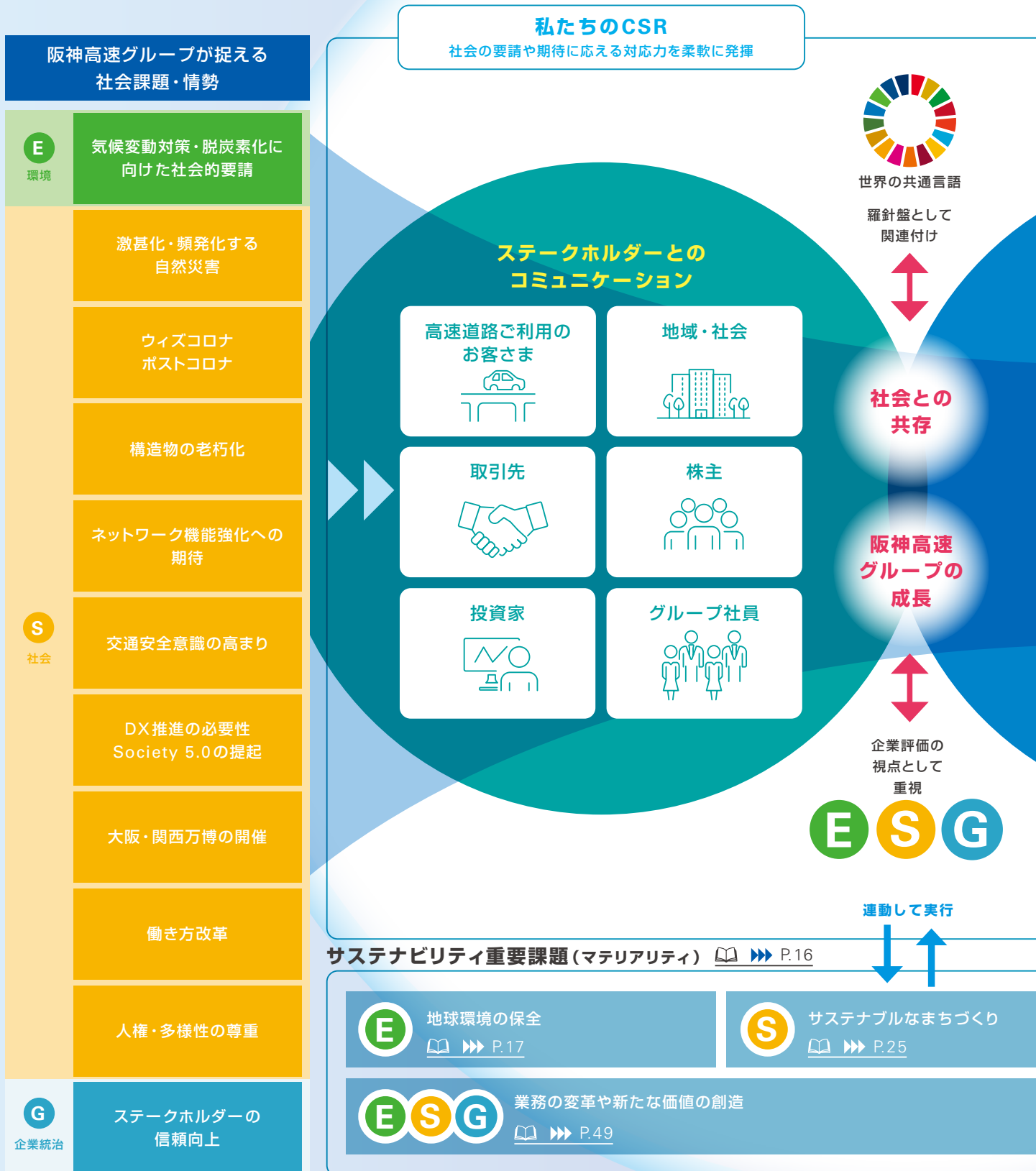


阪神高速グループの新たな方向性

価値創造プロセス



近年、環境・社会課題がグローバルに拡大し、国や自治体だけでなく、企業、個人など社会全体で課題を解決し、持続可能な社会を実現することがより一層求められています。

阪神高速グループは、社会情勢の変化や社会の潮流を敏感に捉え、社会を構成する一員として「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、グループ理念のもと、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、持続的な企業価値の向上を目指します。

阪神高速グループの事業活動

- ◆ 企業存続の基礎活動の徹底
(コンプライアンス、リスクマネジメント、
情報セキュリティ等)
- ◆ 高速道路事業の深化・進化
- ◆ 関連事業のさらなる展開
- ◆ 積極的な社会貢献

阪神高速グループの経営資源

- ◆ 非財務資源(ヒト・モノ・ノウハウ)
- ◆ 財務資源

グループ理念

「先進の道路サービスへ」の
具現化

ビジョン2030 「6つのありたい姿」の 実現

1.

最高の安全と
安心を提供する
阪神高速

2.

もっと便利で快適な
ドライブライフを
実現する阪神高速

3.

世界水準の卓越した
都市高速道路技術で
発展する阪神高速

4.

お客さまや社会に
満足をお届けする
多彩なビジネスを
展開する阪神高速

5.

関西の発展に貢献し、
地域・社会から愛され
信頼される阪神高速

6.

経営基盤を確立し、
グループ社員が
やりがいを実感
できる阪神高速

持続可能な 社会の実現



サステナビリティの 実現



持続的な 企業価値の向上



事業活動を支える経営基盤の
強化

📖 ▶▶ P.41 📖 ▶▶ P.53

▶ 「サステナビリティ基本方針」と「CSR活動指針」の策定

阪神高速グループは、社会情勢の変化や社会の潮流を敏感に捉え、社会を構成する一員として、「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、グループ理念のもと、持続可能な社会の実現に貢献し、持続可能な企業価値の向上を目指すため、2023年1月に新たに「サステナビリティ基本方針」と「CSR活動指針」を定めました。これらは、社会を構成する一員としての、サステナビリティへの基本姿勢を示すものです。

サステナビリティ基本方針

環境・社会課題がグローバルに拡大し、社会全体で課題を解決することが求められている現代社会において、阪神高速グループも社会を構成する一員として、「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、「私たちのCSR=企業の基本的な責任にとどまらず、社会の要請や期待に対してグループ一体となって柔軟に応えていくこと」を実践することで、一人ひとりが輝き、多様な豊かさにつながる持続可能な社会の実現に貢献し、自らも持続的に進化・成長することを目指します。

CSR活動指針

阪神高速グループは、自社を取り巻く社会の要請や期待、変化を感性鋭く捉え、グループ一体となって柔軟に応えていくために、すべてのステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを図りながら、以下の3つの活動を推進します。活動にあたっては、SDGs（持続可能な開発目標）を羅針盤として関連付けるとともに、ESG（環境・社会・企業統治）を重視して取り組みます。

・ 3つの活動内容 ・

企業存続の基礎活動（コンプライアンス、リスクマネジメント、情報セキュリティ等）を徹底します

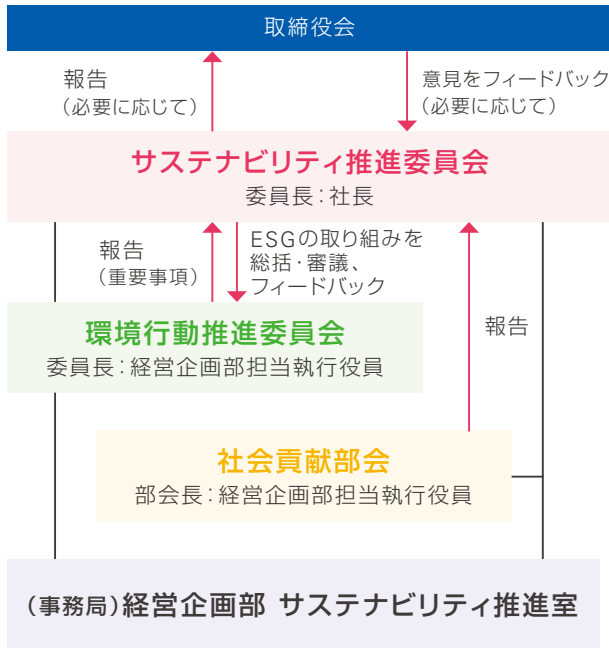
高速道路事業の深化・進化、関連事業のさらなる展開を図ります

経営資源（ヒト、モノ、ノウハウ等）を生かし、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとした社会貢献活動を実施します

推進体制

阪神高速グループでは、これまで「CSR推進委員会」を通じて、CSRマネジメントを推進してきました。2022年度は、主にサステナビリティ経営推進に向けた議論を行い、2023年1月に同委員会を発展的に改め、「サステナビリティ推進委員会」を設置しました。そして、その傘下に「環境行動推進委員会」および「社会貢献部会」を設置し、これらの体制のもと、事務局である経営企画部サステナビリティ推進室が中心となって活動主体である社内各部署やグループ各社と日常的に連携・調整を図りながら、持続可能な社会の実現と持続的な企業価値向上を目指していきます。

推進体制図



各委員会の役割

サステナビリティ推進委員会
サステナビリティに関する基本的方針や
主要な取り組みの推進に関する審議などを実施

環境行動推進委員会
地球環境の保全に係る取り組みに関する
審議などを実施

社会貢献部会
社会貢献活動に係る個別事案の審議を実施

阪神高速グループの事業とSDGsとの関係

阪神高速グループの事業とSDGsとの関連を踏まえ、SDGsとの関係をこのように整理しています。

当社グループでは、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を意識しつつ、事業と最も関連の深い目標11「住み続けられるまちづくりを」を中心に、すべてのSDGs目標の達成に貢献します。



各目標への取り組み内容

事業に最も関連が深いSDGs

11 リニューアル工事、渋滞対策、
ネットワーク整備など

事業に関連が深いSDGs

- 3 交通安全対策など
- 8 働き方改革など
- 9 産官学技術連携による技術開発など
- 12 建設資材などのリサイクル
- 13 災害対応力の強化など

事業に関連するSDGs

- 4 学校での総合学習などへの支援など
- 7 道路照明設備のLED化など
- 15 阪神高速グループの森づくり
- 16 入札談合など
収賄行為の防止

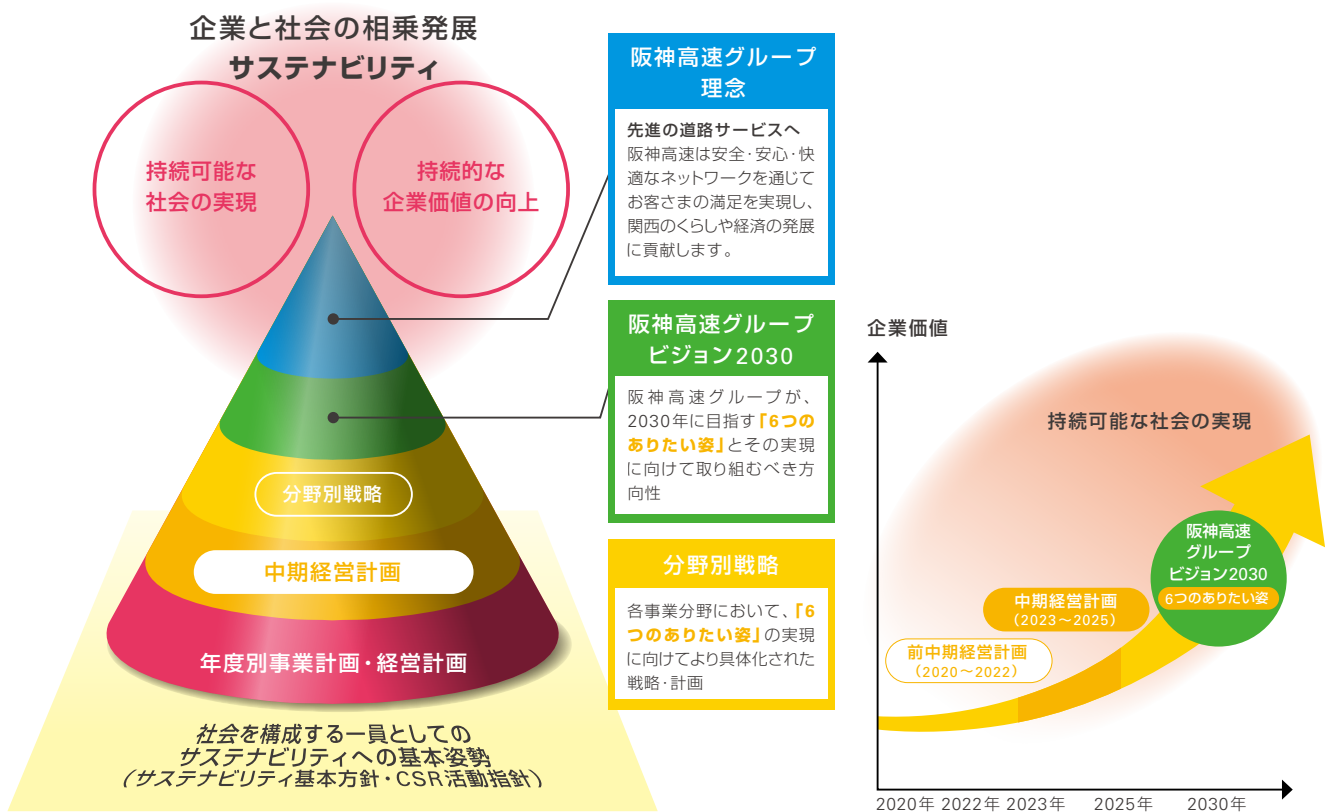
阪神高速グループ 中期経営計画

新中期経営計画 (2023~2025)

阪神高速グループは、社会を構成する一員としてサステナビリティを共通の価値観と認識し、阪神高速グループ理念と阪神高速グループビジョン2030を実現するために、分野別戦略を踏まえ、2023~2025年度の3か年に取り組むべき具体的な計画として、中期経営計画を策定しました。

本計画は、ビジョン2030の「6つのありたい姿」の実現に向けた計画であるとともに、当社グループが大阪・関西万博に貢献し未来社会を描くためのアクションプランとして、DXや、2050年のカーボンニュートラルを目指したGXを推進する取り組みを含め、3年間に取り組む具体的な施策を計画したものです。今後とも、関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速グループとなるよう、グループ一丸となって、本計画を推し進めていきます。

中期経営計画の位置付け



阪神高速グループのサステナビリティ経営

環境・社会課題がグローバルに拡大し、国や自治体だけでなく、企業、個人など社会全体で課題を解決し、持続可能な社会を実現することがより一層求められている現代社会において、社会を構成する一員としてのサステナビリティへの基本姿勢(サステナビリティ基本方針およびCSR活動指針)を土台(大切に作るマインド)とし、その上に経営マネジメント体系を築いてグループ理念の具現化を図り、ひいては企業と社会の相乗発展を目指すこと。

「6つのありたい姿」と大阪・関西万博に対する取り組み

1 最高の安全と安心を提供する阪神高速

- ◆ リニューアルプロジェクトの着実な推進
- ◆ 災害に強い阪神高速
- ◆ 交通安全対策・良好な走行環境の確保
- ◆ より合理的で効率的な維持管理の実施

数値目標

死傷事故率 2025年度目標値	快適走行路面率 2025年度目標値	橋梁・トンネル・附属物の 点検実施率 2025年度目標値
10.0 件/億台km	97%	100%

2 もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

- ◆ ネットワーク整備の推進
- ◆ 新しい技術を活用した渋滞対策の推進
- ◆ ETC専用化の推進
- ◆ お客さまにわかりやすい情報提供と新たなサービスの展開
- ◆ パーキングエリアの快適性・利便性の向上

数値目標

渋滞損失時間 2025年度目標値	ETC専用料金所 2025年度目標値	各PAの提供サービス 2025年度目標値
870 万台・時	110 カ所程度	4.3

※ お客さま満足度：5段階評価

3 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

- ◆ 大規模プロジェクト等のハード技術の開発
- ◆ シームレスで高度なインフラマネジメントの推進
- ◆ 将来を見据えた新たな技術の開発
- ◆ パーソナライズされた安全・安心・快適なモビリティサービスの実現
- ◆ 卓越した技術力・ノウハウの強化

4 お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

- ◆ 関西の発展に向けた多彩な事業の展開
- ◆ 国際事業の推進

数値目標

関連事業の営業収益(連結) 2025年度目標値	関連事業の営業利益率(連結) 2025年度目標値
60 億円	14%

5 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速

- ◆ 社会経済活動の活性化や都市構造の強靱化
- ◆ 環境経営推進・脱炭素社会への挑戦
- ◆ 地域との連携・地域社会の活性化
- ◆ 社会貢献活動

数値目標

道路照明のLED化によるCO ₂ 排出削減量 2023～2025年度合計目標値
62.2 t-CO ₂

6 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

- ◆ ステークホルダーの声を反映した経営と信頼性の向上
- ◆ 働きがいを実感できる働き方改革・ダイバーシティ&インクルージョンの推進

数値目標

お客さま総合満足度 2025年度目標値	女性採用 2025年度目標値	男性の育休取得率 2025年度目標値
4.0	4割	100%

※ お客さま満足度：5段階評価

大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速

交通円滑化への貢献

パーキングエリアでのインバウンド対応等の
パーソナルサービス

大阪・関西万博の気運醸成につながる
地域のにぎわい創出

新たなプロジェクトへのチャレンジによる
価値の創造

前中期経営計画(2020~2022)達成状況

前中期経営計画は、構造物の老朽化や自然災害の激甚化、関西の成長に向けたミッシングリンクの整備への期待と大阪・関西万博の決定、高速道路における交通安全上の課題の顕在化といった経営環境を踏まえて策定しました。計画期間中、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下においても、重点施策であるリニューアルプロジェクト、災害対応力の強化、ネットワーク整備の推進、お客さま満足の向上を中心にグループ一体となって取り組んできました。関連事業においては、一層の事業規模拡大に向けて事業を展開した結果、営業収益、営業利益ともに目標を達成しました。

数値目標の達成状況

ありたい姿	指標	単位	2022目標値	2022実績値	コメント
1	交通事故件数	件	4,200	4,534	交通事故件数は過去から減少してきているが目標達成には至らなかった
1	快適走行路面率 (良好な走行路面の割合) ^{*1}	%	97	96	前回補修から時間が経過した路線での損傷が進行したため
1	機能低下があり、対策を要する 損傷の補修率 ^{*2}	%	100	100	達成
1	道路照明LED化率(本線照明)	%	58	63	達成
2	年間総渋滞損失時間 (万台・時) ^{*3}	万台・時	880	1,071	大規模更新・修繕事業の影響によるもの
2	ETCお知らせアンテナ設置	箇所	15	15	達成
2	ETC2.0利用率	%	30.0以上	29.6	ほぼ達成
2	各パーキングエリアの 提供サービス (お客さま満足度(5点満点評価))	点	4.3	4.0	お客さま満足度は過去から向上してきているが目標達成には至らなかった
2	パーキングエリア数や設置箇所 (お客さま満足度(5点満点評価))	点	4.0	3.6	お客さま満足度は過去から向上してきているが目標達成には至らなかった
4	関連事業の営業収益(連結)	億円	58	59	達成
4	関連事業の営業利益(連結)	億円	8.5	10	達成
5	本線道路照明LED化による CO ₂ 排出の抑制量 ^{*4*5}	kg-CO ₂	300,600	233,800	CO ₂ 削減効果が高いトンネル部の着工が遅れたため
5	特定調達物品における グリーン調達率	%	100	99.7	ほぼ達成
6	お客さま満足度(5点満点評価)	点	3.9	4.0	達成

※1 快適に走行できる舗装路面の車線延長÷全車線延長

※2 損傷の補修率=(当該年度における修繕完了件数)÷(当該年度計画上の修繕予定件数)(%)

※3 渋滞が発生し走行速度が低下することによりお客さまが1年間に損失した時間の総和

※4 CO₂排出の抑制量は、関西電力株式会社2018年度調整後排出係数(0.334)に固定して算出

※5 2020年からの施策による効果

サステナビリティ重要課題の特定

サステナビリティ経営を推進するにあたり、取り組むべき課題を明確にするため、4つの「サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)」を特定しました。今後は、これらの課題解決に向け積極的・能動的に取り組むとともに、情報開示を進めていきます。

サステナビリティ重要課題

- 地球環境の保全(E)
- サステナブルなまちづくり(S)
- 事業活動を支える経営基盤の強化(SG)
- 業務の変革や新たな価値の創造(ESG)

特定のプロセス

2030年に目指す「6つのありたい姿」を起点として、日頃のコミュニケーションから認識した要請や期待、さらには社会情勢の変化をESG視点で整理のうえ、サステナビリティの実現のために重要と考えられるテーマを洗い出し、サステナビリティ推進委員会での議論を経て「サステナビリティ重要課題」として特定し、取締役会へ報告しました。特定したサステナビリティ重要課題は、サステナビリティ推進委員会でモニタリングしていきます。

